

# SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・  
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

**NPO法人 地域福祉サポートちた**

## もくじ

地域包括ケアシステムのエンジンは  
地域づくり、まちづくり・・・1P  
NPO雇用状況等調査事業の中間報告・・・2P

若手NPOスタッフの働き方についての  
意見交換会・・・2P  
団体紹介 社会福祉法人むそう・・・2P  
知多地域の「地域の交流の場」の  
拡充に向けて・・・3P

愛知県NPO理解インターンシップ・・・4.5P  
大府職員派遣研修・・・5P  
NPO担当職員リレー・・・5P  
サボちたインフォメーション・・・6P

## 地域包括ケアシステムのエンジンは地域づくり、まちづくり

～第11回介護保険推進全国サミットの報告～

10月21、22日に東浦町で行われた第11回介護保険推進全国サミット「地域包括ケアシステムでつくる健康長寿社会の実現」に参加し、次期介護保険制度改正に向けての保健・医療・福祉関係者のさまざまな取り組みについての報告と今後の課題を聞いた。

基調講演は、国立長寿医療研究センターの大島伸一氏。超高齢社会の日本が求められている医療はこれまでの「治す医療」ではなく、「病院ではない地域の生活の中でこれまでの日常を支える医療」であり、「障がいとの共存、生活復帰、納得ゆく死」の3本柱を可能にする地域完結型医療であると結論づけた。

分科会では、①環境やケアによって不安や焦燥、うつや暴力などの周辺症状は良くなる可能性もある認知症について、包括的なネットワークにより協働と分業で支援者の負担軽減をとの提言。

②介護予防は楽しく外出してもらいまちづくりであり、財源問題に触れ「幸せの政策を金で縛っているのか」と問題提起。介護予防から地域を元気に！自治・地域の活性化につなげようとアピールした。

参加した③「地域資源活用」の分科会では、QOD「クオリティ・オブ・デス＝看取りの質」が世界で23位という日本の貧しさに触れ、地域単位のマネジメントシステムの構築が急務であり、「地域包括ケアシステムのエンジンは、すまい、生きがい、仕事につながるインフォーマルサービス＝まちづくり」と位置づけた。

実践例としてNPO法人ホームホスピス宮崎が報告、緩和ケア病棟の実践を通して在宅緩和ケアが拡がり、在宅へ戻れない人のついのすみかとして「かあさんの家」を運営。入居者5人に疑似家族として衣食住を支えるスタッフ日勤2名、夜勤1名の24時間2交代制。空き家活用、家具や食器もそのまま使い

初期投資ゼロで、「住まいにケアを持ってくる」つまり、在宅医療と介護サービスを外付けで持つてくるしくみ。「治ることが目標では死は敗北。最期を穏やかに迎えることを最も価値のあることとし、本人の意思決定を支えたい」と市原美穂理事長は結んだ。

特別講演のNPO法人夢の湖舎藤原茂理事長は、介護度の改善成果を上げているバリアありありのデイサービス「街角デイ」を紹介。利用者に寄り添いながら手探り、目探り、耳探りで本人のできそうな事をはかり、意思を引き出すオリジナル支援「できそう網」「バイクによる個別機能訓練」「宅配ピリテーション」などを披露した。「人生の現役養成道場」とうたったこの施設には、新幹線を通う利用者もあるといい、その場にあふれる介護の心は「目の前のあなたを私は放っておくことができない＝I careの気持ち」であり、本人の意思を最重視する新しいリハビリテーションの姿を具体的に伝えた。

藤原さんの「やろうかなあという姿勢が見えたら見守り、できたらほめるがプロの介護」との言葉はそのまま教育にも当てはまるという点と、サミット全体を通して医療の専門家が社会学を語るかのごとく「地域づくり」「まちづくり」を連発していたのが強く印象に残っている。

(岡本)



※詳しくはp6へ...

『ただいま  
それぞれの居場所』

映画でみつめる介護の現実

11月27日(土)半田にて上映

## NPO雇用状況等調査事業の中間報告

経済的な雇用の受け皿として、また社会サービスの担い手として、その存在感を示しつつあるNPO法人。その数は2003年からの7年間で約3倍に増え、非営利組織の活動の土壌が確実に拡大していることを示している。それに伴い、活動に関わる人の数や事業の規模も「ただのボランティア」と無視することのできない状況になってきている。

このような社会の動きを受け始まった、NPO法人の活動環境や雇用力を調査・分析する「NPO雇用状況等調査事業」も、ちょうど中盤にさしかかっている。

9月の初旬に、福祉・医療関係の法人はもとより、まちづくりや教育など様々な団体と関わりのある個人に向けて1420通のアンケートを発送した。多くの方のご協力を得て、調査回収率目標の4割を達成し、これから分析作業に入る。以降は、先行事例として団体ヒアリングや有識者ヒアリングを行い、1月には報告書を完成する。

この結果を広く共有し、「NPOの社会的役割と新しい働き方」「雇用環境の整備」「人材確保・育成の戦略」において、現場のNPOだけでなく、中間支援団体や行政の取り組むべき課題をまとめていく。(竹内綾)

## 若手NPOスタッフの働き方についての意見交換会

10月20日、あいちNPO交流プラザにて「若手人材が安心して・やりがいをもって働き続けられるためには」をテーマとした意見交換会が行われ、愛知県内の若手NPOスタッフ等7名が参加した。

NPO法人ユースビジョンの代表赤澤さんを講師に迎え、「若年層NPO・NGOスタッフ採用・雇用実態調査」の報告とともに、そこから見える実態についてお話しいただいた。

やりがい・意義など若者の仕事に求める価値が多様化しており、NPOで働くことに関心のある人が増えつつある。しかし、NPOへの就職はどこに窓口があるのかが分かりにくい。現状では、口コミやつながりから働くきっかけになっていることが多い。特に、団体規模が小さいNPOにとっては目の前の事業や作業に追われ、人材の発掘・育成など団体としての基盤整備が後回しになってしまうのが現状。NPOに興味・関心があっても一歩踏み出せない人もおり、NPOが事業所としての機能

を充実させていくことが求められている。

最近では、社会人経験のない人がNPOに就職しており、人材育成の社会人として、電話対応やマナーなど、仕事をする上で最低限必要な研修を行う必要があるとの意見も出された。

ユースビジョンではすでに合同就職説明会など複数の団体が連携した取組がされている。つながり・連携を組むことでできる工夫もありそうだ。

来年1月には、今回の報告や意見交換、アンケート調査を踏まえた報告がされる。これを基に、NPOが若い人にとってより魅力ある働く場になっていく事が望まれる。(後藤)

### ☆会員団体紹介☆

#### 社会福祉法人 むそう

「どんなに障害が重くても地域で最期まで暮らせるシステムをつくること」を理念に掲げて活動している。1999年任意団体「障がいのある方とご家族のための生活支援サービスふわり」を立ち上げ翌年NPO法人ふわりへ、そして制度事業のむそうとふわりグループ拡充へと成長し続ける。「この理念が、現場でどう形になっているのか、形にしていくのかをいつも考えさせられます。」そう語るのは事務局長の瀬佳奈子さん。今いる障害のあるメンバーの生活を支えるために必要なことは継続。そのために若いスタッフを雇用し続け、いろいろな人に関わってもらい学びあい、どんな未来に向かっていくかを一緒に考えながら、人材育成に努める。就労の場を「ブランド」で選ぶのではなく、法人や代表の考えに共感し中身で勝負する彼らに未来を託し応援し続けたい。(市野)



中華茶房うんぱう  
こだわりのラーメン



NPO法人ふわり主催

私らしくmeetingちた2010「ふわりんクルージョン」  
～共生の可能性を探る～

日時 12月4日(土)10時半～18時  
12月5日(日)10時～16時半

会場 中部国際空港 セントレアホール他

定員 300名

参加費 20,000円

(講演・分科会・交流会・宿泊費・資料代含む)

## 知多地域の「地域の交流の場」の拡充にむけて

団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、医療費や社会保障費の急増が問題にされる2025年。介護保険などの制度をできるだけ使わずに、自立して生活してくためにはどうしたらいいか。

昨年度、実施した愛知県協働ロードマップ「要介護状態にない高齢者が利用できる地域の交流の場作り」で目指す姿として、「現在考えられるあらゆるタイプの交流の場の拡充」という包括的なビジョンをすでに共有している。

各市町ごとの協議【地域に足りない福祉サービス創出会議】をはじめ同テーマの協議が様々な形で行われた。その後の拡充の取り組みが以下のように進んでいる。さわやか福祉財団では、12月に知多地域での居場所の取り組みについて報告を行



トレーラーハウスを活用した居場所 りんりん茶屋にて

う予定だ。

15年後、会社生活から地域生活に重心を移行する団塊世代の人が急増する。これまでの経験や人脈、知恵などを持つ

元気な高齢者が、地域で集い、話

し合い、活動できる場。そんな居場所が今、いろいろな地域で動き始めている。（下表）

サポートちたでは、来年1月15日に「地域力をたがやす～ささえあいの居場所づくり～」をテーマにフォーラムを開催す



古民家を改装した居場所 はっぴいわん大府

### ■知多地域の居場所の状況

市町	NPO	内容
半田市	りんりん 菜の花 共育ネットはんだ	・敷地内にトレーラーハウスを1台追加、多世代交流の場が7月に完成 ・toピアの精神障害者がデイサービスのお手伝いをする事で、共生 ・岩滑地域の農地を借り、子どもとのふれあい農園等を展開予定
東海市	ふれ愛	・7月に「移送サービス名和支店」がたすけあい活動事務所を兼ねて始動 ・男性が集まる場「たこやき屋」が12月に立ち上がる予定 ・もう1つ企画
常滑市	あかり	・倉庫改修プロジェクトが始動 ・福祉課、社協、協働課などとの情報交換会を2ヶ月に1回開催中
大府市	はっぴいわん大府  ネットワーク大府	・社協主導の拡充事業に協力、石ヶ瀬地区施設活用「ふれあいの居場所みどり」が10月にオープン ・ほたるの里 ・北山 ・居場所基金について、さわやか福祉財団、社協、市協働課、市民活動センター指定管理者NPOとともに協議をすすめている ・男の居場所としてマージャンサロン
知多市	ゆいの会 万年青会 縁ジョイ	・地域密着プロジェクトが始動 ・協働提案事業として事業展開 ・民家を借り開所準備
東浦町	絆 あんだんて 社協	・居場所立ち上げ資金の拠出を決定 ・あんだんてカフェ1回開催 子育て支援施設だが、祖母・親子での参加有 ・立ち上げ講座開催
阿久比町	もやい	・居場所を通じて災害時要援護者の把握について関係者協議
武豊町	ゆめじろう 福祉課	・実行委員会で介護家族のための交流会開催 いずれ包括の仕事に ・地域福祉計画で「地域カフェ」を提案
美浜町	チャレンジド	・月1オープンミーティング開催

## 愛知県職員NPO理解インターンシップ

### 青木伸之さん(食育推進課)

8月19日～8月25日

たった6日間でしたが、1泊2日のNPO現場見学バスツアー、NPOだいこんの花での1日業務体験など、知多地域の福祉を支えるNPOの現場とそれをつくる方々の想いを、しっかりと感じることでできる研修でした。

その中でも、NPOふれ愛の代表が、これまでの事業の拡大を振り返り「初めから今の姿を想像していたわけではない。ただ『なんとかしなきゃ』と動いてきた結果、こうなっただけだ」と仰っていたことが大変印象的でした。目の前の人を救おうとして活動を始め、続け、広げてきた結果、地域の方々からの感謝と支援を受けることができた。その一言に「NPOの活動の原動力」に触れた気がしました。

しかし、これはNPOに限った事ではないはず。常に周りの課題にアンテナを張る。課題を見過ごすのではなく、解決しようと自ら動く。」私自身の仕事においてもそう心がけ行動していかなばと、強く感じました。



### 花井敦浩さん(産業技術研究所)

9月15日～9月24日

「地域のたすけあい」、それが今回のNPO法人地域福祉サポートちたでの研修で学んだことです。NPO現場見学バスツアーでは、80歳近い方が現役で元気に活動している姿を目にし、地域に貢献することが地域に自分の居場所を作っているのだと感じました。事務所での業務(NPO雇用状況等調査)からは、多くの方はNPOで働くことに対して肯定的な意見を持っているが、中にはそうでない意見を持っている人もいたことに驚きました。あと、現状に満足していない人も多く、給与や休暇の面での要望があったり、組織の体制に苦労していたりする人もいました。地域のことを考えるのも大事ですが、そこで働く人達の環境を考えるのも、結果的に地域の助け合いに行き着くように感じました。アンケート調査の最終結果が気になります。



### 乙部佑介さん(コロニーはるひ台)

9月21日～9月29日

私は地域福祉サポートちたでのNPO現場体験研修を通して、多くのことを知り、学ぶことができました。特に印象的であったことは、たくさんの出会いがあったことです。知多半島には地域の活性化を考える、数多くのNPO団体や民間組織が存在し、それぞれが繋がりあって市民活動を行っています。みなさん、素晴らしい笑顔にあふれていて、「困ったときはお互い様」をモットーに、助け合って地域の抱える問題に立ち向かっていました。

私は、はじめて知多の地域福祉に参加させていただきましたが、知多地域は、まるで「一つの家族」のように繋がっていました。ネットワークって、本当に大切なものですね。

私たち行政職員も、一市民であることを忘れず、その助け合いの輪に入って一緒に考え、一緒に問題解決に取り組めるよう努力していきたいと思えます。「みんなで未来を作る!」、これこそがこれからの地域福祉です。



### 枝村有希さん(西三河福祉)

10月15日～10月21日

今回の研修では、NPO現場見学バスツアーに参加させて頂き、NPO代表の方々のお話を直接聞いて、多くの事を学ばせて頂きました。代表の皆さんは前向きで、いきいきしていて、熱い思いを持っていました。活動内容は、その地域の特色を生かした町づくりの取り組み、いくつになっても元気で自立した生活ができるような高齢者を増やすための活動、体験や交流の場づくりなど様々。その活動が自分の生きがいであり、また他人の幸せにも繋がっていきます。「居場所」「生きがい」「幸せ」が共通するキーワードの様に感じました。地域の中で、家以外の居場所があり、いくつになっても生きがいを感じて生きられるというのは、とても幸せな事だと思います。それを色々な方法で実践しているNPOを見させていただき、行政職員としてだけでなく、一人の人間として大切なことを学ばせてもらったような気がします。



**池山雄介さん**(知多保健所)

10月21日～10月28日



研修中、もっとも強く感じたことは、職員のモチベーションの高さです。行政は仕事の根拠が法令にあるのに対し、NPOは、目の前の問題をどうにかしたいと考える気持ちにあります。サポートちたの方々は、そうした気持ちが表にあらわれていて、私自身のモチベーションもあがりました。

今後、行政だけではカバーしきれない部分、ニーズがさらに増え、NPOの位置はますます重要になっていくだろうと感じています。だからこそ、こうしてNPO側として働ける機会を得られたことは、今後、自分の糧として生きていくはずで



**大府市職員派遣研修**

**福山友里さん** (税務課)

9月17日～9月25日



今回の研修で実際のNPO活動をしている現場の雰囲気や具体的な活動について知ることができて、とてもいい経験になりました。また、NPOの様々な団体の方のお話をうかがい、NPOの活動に関わる方の熱意を感じることができました。

「困っている人を助けたい」「地域の居場所を作りたい」という思いを、実際に行動に移すパワーのある方がいて、人が集まりNPOの活動が広がっていくのだなと思いました。

今後日本の高齢化が加速して進んでいく中で、行政だけ、NPOだけで地域の問題に対応するのは難しくなっていきます。NPOと行政が協働して、地域の人のために活動していくことが重要だと強く感じました。



**鈴置 弘さん** (下水道課)

9月17日～9月25日



今回の研修では、NPOの現場の方から直接話を聞いたり、現場を体験することで、NPOに携わる方々の熱い思いを感じることができました。地域の問題や課題に対し

て、自分が何かできないかと考え、それを具体的な活動につなげていくという行動力には大変驚かされました。何かをやり遂げようという熱意のある人の基には自然と人が集まり、段々と輪が広がっていき、それがつながっていき、このつながりが地域の重要な支えとなっていると感じました。

行政もNPOも様々な問題や課題を抱えており、行政だけ、NPOだけで行動していても解決が難しいようなこともあります。そのような中でお互いが協力し合い、つながりを大切にするこ

**NPO担当職員リレー**

**現場第一。**

**活躍する市民の後方にまわり支援をつなぐ**

大口町地域協働部地域振興課

近藤 祐子氏



「住民みんながつながりあって自分たちのまちを元気にしていく。関わりあう人たちがジグソーパズルの1片。大小さまざまで、ひとつひとつ違う形が組みあうことで絵が完成する。まちづくりってそんなイメージ。」と語る。地域振興課6年目、現場第一主義でソーシャルキャピタルの概念をもつ数少ない職員

の一人だ。広報担当時の経験と職場の先輩の影響が大きいという。大口町は人口約22,000人、再来年の24年度に町政50周年を迎える。町の中央を流れる五条川と桜が有名で、4月のさくら祭りには伝統芸能の披露もある。これらの取り組みもNPO団体が企画・運営する。平成11年より町民主体のまちづくりをすす

め、現在は43団体が自立したNPO活動を展開している。法人格が無くても助成金や協働委託事業の受託ができる大口町独自の支援制度がある。子ども会、老人クラブ千歳会、婦人会が前身のサクラメイトもNPOと肩を並べた活動になっている。

協働が進んでいるとひと口にいても、「協働委託」や「委託」等、職員全体の意識を高め行政ルールを整理する必要がある。そのための取り組みとして職員向けルールブックを来年8月終わりに作成する予定だ。(市野)

# サポちた インフォメーション

会員さんなどから集まる情報をお知らせします。お気軽に情報をお寄せ下さい。

## ■ 児童デイサービスはじめました!!

NPO法人プレマクラブでは、児童デイサービスを始めました。心身の発達に心配がある子どもや障がいのある子どもたちが楽しく過ごせる場所です。それぞれの子どもたちに合った発達の支援を考え、お手伝いをしていきます。

<対象> 未就学児～小学生

<サービス提供日/時間>

月曜日～金曜日/9:30～12:30、15:00～18:00

<場所> 半田市彦洲町1丁目286番地

<問合せ> 児童デイサービス ドーナツ MaMa

TEL: 0569-24-0380

## ■ コミュニケーションについて考える

～利用者さんの声聞こえていますか?～

NPO法人ゆめじろうでは、ヘルパー・支援者の学習会を行います。NPO法人ゆう豊田さんを講師に迎え、経験を交えてわかりやすくお話していただきます。

<日時> 11月12日(金) 19:00～21:00

<場所> 武豊町中央公民館(第1・2会議室)

<参加費> 500円 <定員> 30名

<問合せ> NPO法人ゆめじろう(担当:榊原・山本)

TEL:0569-72-0012 FAX:0569-72-6454

※FAXにてお申し込みください

## ■ 笑って学ぶ成年後見制度

～成年後見制度の活用に向けて～

認知症や障がいにより判断能力が不十分な方の権利や財産を守るための成年後見制度。今回は、制度について知っていただき、理解を深めていただくため、落語家真打ち桂ひな太郎さんによる成年後見落語を開催いたします。

<日時> 11月20日(土) 13:30～15:30

<場所> 美浜町総合公園体育館

<参加費> 無料 <定員> 300名

<問合せ> NPO法人知多地域成年後見センター

TEL:0562-39-2663

## ■ 映画でみつめる介護の現在

【ただいま それぞれの居場所】 上映

介護制度の枠組から漏れてしまう人々。自ら理想とする新しい介護を追い求め動きはじめた若い人たち…。映画は、利用者やその家族とより深く関わりながら、日夜奮闘するスタッフたちの姿を映し出しています。

<日時> 11月27日(土)開場12:00、開始12:30

同日開催 10:00～11:30

立浪和義氏(元中日ドラゴンズ)講演

<場所> 半田市雁宿ホール

<料金> 2,000円(講演+映画)

<問合せ> NPO法人ふわり(担当:瀬)

TEL:0569-89-6237 FAX:0569-89-6238

## ■ 基礎訓練受講生募集

NPO法人ネットワーク大府では、基礎訓練実践演習コース(介護実践科)を実施します。受講生は、ホームヘルパー2級、(全身性・視覚)ガイドヘルパー、行動援護従事者、精神障がい者ホームヘルパー養成研修の修了資格が得られます。

<日程> 2010年12月14日～2011年3月11日

<場所> ネットワーク大府研修室、実習は大府市内

<受講料> 無料

<問合せ> NPO法人ネットワーク大府(担当:中嶋)

TEL: 0562-44-3735 FAX: 0562-44-2953

※申込み方法は、ネットワーク大府へお問合せ下さい

## ■ 「連合・愛のカンパ」助成金

さわやか福祉財団では、今年度も日本労働組合総連合会(連合)草の根型市民活動団体立ち上げや新規事業立ち上げを支援するための助成を行います。

<応募期間> 2010年10月1日～11月20日

<助成対象> 2009年12月から2010年11月末までに立ちあがった、又は、開始する予定の新しい活動

<問合せ> 公益財団法人さわやか福祉財団

(立ち上げプロジェクト)TEL: 03-5470-7751

## NPO現場見学バスツアー



11月16日(火) 9:30～16:30 定員26人

12月16日(木) 9:30～16:30 定員26人

参加費 5,000円(昼食代別途)

オプションバスツアー常時受付中!  
目的に合わせて企画します。(担当:後藤)



特定非営利活動法人  
地域福祉サポートちた



478-0047 知多市緑町12-1

知多市市民活動センター1階

Tel 0562 (33) 1631  
Fax 0562 (33) 1743